【高等学校・交流に関わる体験活動】

地域施設と連携した保育体験活動・特別養護老人ホーム体験活動

栃木県立鹿沼高等学校

学　校　の　概　要

① 学校概要

○ 学級数：２６学級

○ 生徒数：１，０３９人

○ 教職員数：７８人

② 体験活動の視点からみた学校環境

○ 鹿沼市は栃木県内西部の上都賀地区に位置し，宇都宮市に臨接する人口約９４，０００人の都市である。

○ 鹿沼市は，社会福祉協議会の活動が活発で，地域ボランティア連絡協議会も設置され，２２年の歴史がある。

○ 本校は平成１７年度に創立８０周年を迎える。文武両道を掲げる，上都賀地区の学校である。ほぼ全員が進学し，多くの生徒が国公立大学を目指すとともに，部活動も盛んで，たくさんの部が全国大会に出場している。

○ 体験活動に協力してくれる保育園は学校から徒歩５分の距離にあり，子育て支援センターを併設し，子育て相談事業も実施している。高校生の保育体験活動の大切さを理解してくれている。

○ 昭和３８年から平成１０年まで家政科生徒全員が３年次の６月に２日間市立保育園で保育実習していた歴史がある。（１９９９年3月に家政科閉科）

○ 特別養護老人ホームのボランティアは，約１０年間継続している。

③ 連絡先

○ 〒３２２－００４３
栃木県鹿沼市万町９６０

○ 電　話：０２８９－６２－５１１５

○ ＦＡＸ：０２８９－６５－７６０１

体　験　活　動　の　概　要

① 活動のねらい

○ 子どもの発達の特徴と接し方を学ぶとともに保育の重要性について理解を深める。

○ 子どもの発達の個人差や個性の豊かさを知るとともに，子どもの保育環境が大切であることを学ぶ。

○ 高齢者の心身の特徴や生活について理解を深め，高齢者に対する福祉サービスや高齢者とのふれあいの重要性を認識する。

○ 高齢者との交流により，自分自身を見つめ，これからの自分の生き方を考える。

○ 地域福祉の担い手としてボランティア活動に関心をもつ。

○ 人々との健全な関わり方を学び，人間関係を築く力を育てる。

② 主な活動内容・方法（位置付け・期間等）

○ 保育体験学習
家庭科学習　科目「家庭一般」
１学年全員　２学期　２単位時間

○ 特別養護老人ホーム体験学習
家庭科学習　科目「家庭一般」
２学年全員　１・２学期　２単位時間

○ ボランティア活動
保育実習・ 特別養護老人ホームボランティア
１～３学年希望者　年間を通して

③ 体制等の工夫

○ 指導体制　指導内容の統一と共通理解

○ 関係機関との連携

④ 活動の成果等

○ 親への感謝を意識するとともに自分や家族を見つめ，人間的に大きく成長できた。

○ ボランティアを行う生徒が増加した。

1　活動に関する学校の全体計画

（1）活動のねらい

ア　人の一生を生涯発達の視点でとらえ，自分をみつめ，自分の生き方を考える。

イ　子どもの発達の特徴を理解し，子どもと適切にかかわることができる。

ウ　子どもの発達の個人差や個性を知り，親や家族及び社会の保育環境の果たす役割が大切であることを理解する。

エ　高齢者の心身の特徴と気持ちを理解し，高齢者と適切にかかわることができる。

オ　高齢者の福祉サービスや高齢者とのふれあいの大切さを体得する。

カ　地域福祉の担い手として，ボランティア活動が果たす役割を理解し，実践しようとする態度を学ぶ。

キ　人と人のかかわり方を学び，人間関係を築く力を育てる。

（2）全体の指導計画

ア　活動の名称

「地域施設と連携した保育体験活動・特別養護老人ホーム体験活動」

イ　実施学年

第１学年	第２学年	第１学年から第３学年
保育体験活動	特別養護老人ホーム体験活動	ボランティア活動

ウ　活動内容

保 育 体 験 活 動	特別養護老人ホーム活動	ボランティア活動
保育園長による説明・保育活動補助(折り紙，ゲーム，遊戯，食事介助)・散歩等	施設見学・施設概要説明所長による説明・交流（歌，ゲーム，風船バレー，色かるたとり）等	保育実習ボランティア　・特別養護老人ホーム ボランティア・子ども会活動ボランティア

エ　教育課程上の位置付け

保 育 体 験 活 動	特別養護老人ホーム活動	ボランティア活動
教科学習 科目 家庭「家庭一般」	教科学習 科目 家庭「家庭一般」	学校設定科目 学校外学修（単位認定） 特別活動ボランティア部・家庭クラブ （希望者）

オ　実施時期（期間，時間数，日数）

保 育 体 験 活 動	特別養護老人ホーム活動	ボランティア活動
１０月，１１月 １クラス２単位時間 （８回）	６月から１１月 １クラス２単位時間 （８回）	長期休業期間，土日祝日等 希望日時　　等 （ただし長期計画作成）

カ　活動場所

保 育 体 験 活 動	特別養護老人ホーム活動	ボランティア活動
鹿沼市立こじか保育園	特別養護老人ホームハーモニー	鹿沼市立こじか保育園，特別養護老人ホーム，子ども会連合会，社会福祉協議会等

キ　継続の状況

保育体験活動実施前に，子どもの心身の発達と特徴の概略・子どもの生活と遊び・子どもの集団保育について学習した。活動を実施する際には，個々の生徒が興味・関心を抱く子どもの年齢に基づいてグループを編制し，実施した。体験学習実施後には，子どもを取り巻く環境や親の役割と保育について学習した。また，活動終了後，更に保育実習ボランティアを希望する生徒に対しては，保育園と連絡をとり，長期休業中及び放課後の保育実習ボランティアを実施している。

特別養護老人ホーム体験活動実施前には，高齢者の心身の特徴と生活，高齢者の福祉，介護の心構えとコミュニケーションの重要性について学習した。その後活動の実施の際には，各クラスの構成メンバーの特徴を生かして交流の内容を決定した。体験学習後，記録をもとに高齢者の生活課題及びライフスタイルや生活設計について学習した。また，納涼祭のときに，高齢者の介助等のボランティアを実施したほか，生徒の自発的な希望により，施設の清掃奉仕等を行い，高齢者との交流を深めるためにボランティア活動を実施した。

２　活動の実際

保育体験活動

（１）事前指導

ア　保育についての学習

子どもの心身の発達と特徴の概略，子どもの生活と遊び，子どもの集団保育の意義について学習し，保育体験学習への意欲を高めた。さらに，子どもとの交流が自然にできるように発達段階に応じたおもちゃを作りを行い，体験活動のときに活用した。

イ　保育体験学習についての事前の学習

保育体験学習実施要項により，目的・内容・交流の流れ・注意事項について学ぶ。安全面での配慮をはじめ，保育士の指示に従うことに留意させるとともに，子どもと接する際には目線を子どもの目の高さに合わせることを強調した。グループ編制は，生徒の個性や興味・関心により希望のクラスを選択させ，保育園のクラス数と合わせて５班に編制した。

（２）活動の展開

ア　活動の流れ

10 時 10 分 ——	10 時 25 分 ————	11 時 35 分　11 時 40 分
全体活動	グループ活動	全体活動
高校生代表挨拶 保育園園長挨拶 主任保育士諸注意 園児との接し方	高校生挨拶（始め） 園児と交流 高校生挨拶（お別れ） その他の園児グループ観察	各グループ・個人の交流感想発表 と質問 保育園園長講話 高校生お礼のことば

学校出発　１０時　　学校到着１１時５０分

イ　各グループの活動状況

訪問した日の天候・園の行事等により活動内容は異なるが，主な内容を記す。

	交　流　・　遊　び	おもちゃ
０歳１歳グループ	子どもの世話と遊び，散歩	にぎにぎおもちゃ
２歳グループ	お遊戯を子どもと演じる。絵本を読む。散歩	押し笛マット
３歳グループ	折り紙，粘土細工，散歩	キャッチボール
４歳グループ	折り紙作品作成 ，お遊戯，園児と遊ぶ。散歩	お手玉　輪投げ
５歳グループ	折り紙作品作成，歌 ，園児と遊ぶ。散歩	的当てゲーム

ウ　保育園の指導者との連携

保育園の指導者との連携を密にして事前指導の徹底，特に乳幼児の接し方については，丁寧に指導する。グループ編制についても編制前に留意事項をよく聞いておく。

（３）事後指導

各自が感想記録を記すとともに，自分の育ってきた足跡を見つめ，親や自分を育ててくれた人々に感謝の気持ちが生じるよう導く。子どもの個性と子どもの育つ環境の大切さを認識させる。保育実習ボランティアの希望者に，長期休業前に申し出るよう伝える。

特別養護老人ホーム体験活動

（１）事前指導

ア　高齢者の生活と福祉についての学習

高齢者擬似体験用具を装着して高齢者の模擬体験を行い，高齢者の身体的特徴を理解する。心理的特徴についても生徒に理解させ，尊敬の念を持ってお年寄りと接することができるように配慮して指導する。特に痴呆性老人との接し方に留意する。

イ　特別養護老人ホーム体験学習についての学習

実施要項により，目的，日程内容，注意事項について説明し，お年寄りとの交流の方法・内容について話し合いを実施する。各クラスの構成員の特徴や雰囲気を生かした内容を，生徒自身が主体的・自主的に考える。その際に痴呆の人も楽しめる内容，全員が一緒に行動できる内容を入れることに配慮する。

また，事後学習として，体験学習記録を記させ，高齢者との交流を体験して，最も感動したこと等を考察させることにより，それぞれが明確な課題意識を持って体験していくように配慮する。

（２）活動の展開

ア　活動の流れ

10時20分 ――――	10時55分 ――――	11時30分
お年寄りとの交流	所長講話	施設見学
施設入所者挨拶・高校生代表挨拶 高校生演出・交流（自己紹介含む） 高校生お礼の挨拶	施設の概要 老人ホームの運営方針	施設の特徴と工夫点

学校出発　１０時　　学校到着１１時５０分

イ　高校生の活動状況（演出と交流内容）

クラス①　全員合唱・手品・風船バレー

クラス②　全員合唱・色かるたとり・カラオケ

クラス③　ピアノ・バイオリン演奏・折り紙・しりとりゲーム

クラス④　全員合唱・演劇・ダンス披露・ 手作りこま回し（紙製）

クラス⑤　空手道演武披露・カラオケ・お手玉大会，等

（３）事後指導

高齢者の方々との交流を通して，ふれあいの大切さを自覚させるとともに，体験学習記録を記すことにより，体験による意識に変化に基づいて，ライフステージとしての青年期以降の在り方について考察させる。

３　体験活動のための体制

（１）学校の体制，関係団体・施設・機関等との連携

ア　学校の体制

全職員が体験学習の目的・内容を理解するようにし，実施日の時間割変更等にも柔軟に協力する。

イ　関係機関との連携

体験活動の内容や実施時期については，年度当初に連絡を取り，話合いをもとに計画を立案する。また, 体験活動を受け入れていただく施設や入所・入園している人たちにとっても，有意義な内容となるよう配慮する。

（２）その他

特別養護老人ホームの体験活動に要するバス代は，県費と家庭科実習費を充当して実施している。児童生徒や指導者等はボランティア保険に加入する。（費用については，児童生徒は家庭科実習費より，指導者は個人支出とする。）

４　成果と課題

（１）「保育体験学習」

親や保育者への感謝を意識するとともに，今の自分と将来の自分を見つめることができ，人間的に大きく成長できた。この体験を機会に，保育に関しての興味関心が高くなるとともに，保育実習ボランティアに参加する生徒が急増した。

【生徒の感想】

・　私は何となく子どもは苦手でした。でも，保育園実習をしてそんな考えも消え，とても楽しい体験ができました。みんな素直でとてもかわいかったです。

・　園児の様々な感情の変化と表情，行動にふれて自分の心まで温かくなりました。また，機会があれば積極的に参加しようと思いました。

【受入先保育園での所見】

・　園児たちは高校生の肩車やサッカー，鬼ごっこなどの活発な行動を大変喜んでいる。特に，男性の保育士はほとんどいない状況なので，男子の高校生は貴重な存在です。高校生にとっても，このような保育体験学習は大変よいと思う。

☆　評価の観点や方法

観察記録・保育実習態度の自己評価をもとに評価する。

（２）「特別養護老人ホーム体験学習」

他の人に感謝された体験により自分の存在感を感じるとともに，老人ホームのお年寄りが，人が人とのふれあいを望んでいることを体験できた。さらに，この体験を機会に，自分の家族を見つめるとともに，高校生の時期を大切にしようと考えた生徒が多い。

【生徒の感想】

・　自分たちには今，何もできないかもしれないが，笑顔で話したりしてあげるだけで，お年寄りの人たちに何か役に立てるのかなと思う。機会があったらまた行きたいです。

・　自分は今まで医療には興味があったが福祉には興味もなく，その価値もそれほど感じなかった。しかし，今日の体験学習は進路について考えている自分には，大きな「気づき」と「学び」を与えていただくプロセスになった。

【受入先老人ホーム所長の所見】

・　お年寄りは鹿沼高校生が訪問してくれることを楽しみにしている。また，高校生が訪問することはお年寄りにも刺激になって元気が出てきている。これからも実施してほしい。

（３）ボランティア活動

保育実習・老人ホームボランティア活動では，他の人のためのボランティアが，同時に自分自身の体験学習となり，ためになることがたくさんあると実感し，積極的に活動している。特に保育実習ボランティアは，保育体験活動実施年度から後に激増している。

保育実習ボランティア参加者数（平成１１年度から保育体験活動実施）

	平成９年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
実人数	１２名	１４名	２２名	２８名	５６名
延人数	２６日	３０日	４８日	６４日	１５８日

５　今後の取組

（１）次年度に向けての改善の方向

これらの体験活動が有する意義を踏まえ，引き続き実施していくとともに，実施後に作成する活動記録等を用いて，各教科等における課題学習などに関連付けていくよう検討することとしている。

【本事例活用に当たっての留意点】

本事例は，保育体験活動と介護体験活動などに，１，２年生全員が家庭科の授業で，希望者が学校設定科目や部活動等で取り組んだものである。教育課程上に明確に位置付け全校的に実施していること，ボランティア活動と交流活動を結びつけ広がりがあること，事前・事後の学習や活動が工夫され深まりのあることなど，体験活動のもつ意義や可能性を十分に発揮したものである。このようなスケールの大きな取組は，高校生が，人間の尊厳や生きることの重みを実感し，自己を確立する体験として貴重である。

こうした取組に当たっては，活動の目的・方法についての理解を深め，生徒の主体性を高めるガイダンスの充実，実施に当たっての教職員の協働体制，そして体験の内面化を図る事後指導の多面的な取組などが重要である。また，そうした教育活動の意義を，保護者や地域に広く発信していく工夫と努力が大切であろう。